

映画「地蔵調査官」企画書

映画「地蔵調査官」製作委員会

代表 中村優太

〈企画経緯〉

香川県では、映画・映像文化の発展や、映像に関わる人材の育成、映画を通じた地域活性化を目的として、主に香川県をロケ地とした映画作品を上映する“さぬき映画祭”が毎年開催されている。また2017年からは、映画の原作となる脚本を募集するシナリオコンクールが開催されており、大賞を受賞した作品は映画製作の支援と、翌年のさぬき映画祭での上映の機会が与えられる。

本作は「さぬき映画祭第4回シナリオコンクール」において大賞を受賞した脚本を原作とした映画であり、さぬき映画祭2022での上映を予定している。

〈撮影期間・場所〉

期間：2021年9月～11月（予定）

場所：香川県内のお寺、学校、公園等

〈主な登場人物〉

- ・野田灯（14）：両親から虐待を受け、親戚の寺（地蔵寺）に身を寄せている。公子に小間使いのように扱われており、毎日息を殺すように生きている。
- ・里見公子（54）：地蔵寺の住職の妻。利己的な性格で意地が悪い。
- ・里見玄宗（60）：地蔵寺の住職。一見真面目で心優しい坊主に見えるが、腹の中では金儲けのことしか考えていない。
- ・地蔵調査官（45）：いつもよれよれのスーツを着ていて、地蔵調査官と自称する謎の男。地蔵から日々のお勤めを聞き、天界へ報告するのが自分の仕事だというのが真偽は不明。
- ・行者（40）：地蔵菩薩の化身。住職を戒めるために行者の姿で現世に現れる。

〈あらすじ〉

野田灯は両親から虐待を受け、親戚の寺に身を寄せている。しかし、寺でも奥さんに小間使いのように扱われており、毎日息を殺すように生きている。

ある日、寺に一日中地蔵と話している男が現れる。男は、「自分は地蔵調査官でお地蔵様達の日々のお勤めを調査し、天界に報告することが自分の仕事だ」と灯に説明する。そして、個性豊かな地蔵達のお勤めの話をも灯に聞かせる。また地蔵調査官は、「人間には忘れられているが他のお地蔵様達から最も尊敬されているお地蔵様がこの寺のどこかにいる」と言う

ので、一緒に探すことになる。

灯と地蔵調査官はついに忘れられた地蔵を見つける。その地蔵は虐待を受けている子ども達をずっとそばで見守るというお勤めをされていた。灯はその地蔵を知っていた。両親から虐待を受けていた時、寺の夫婦からいやがらせをされている時、ふと近くに気配を感じるがあった。自分は今まで誰からも愛されたことがないと思っていたが、その地蔵に深く愛されていたということを知り、強く生きていくことを決意する。

〈テーマ・ねらい〉

近年大きな社会問題となっている児童虐待について、身近なものとして考えてもらうきっかけとなる作品にしたいと思っております。本作に登場する地蔵のように、ひとりひとりが自分の目の届く範囲の児童を見守るという意識を持つことができれば、悲惨な事件を未然に防ぐことが可能だと思います。この作品を通して、少しでも児童虐待の防止に貢献したいです。

〈スタッフ〉

監督・脚本：中村優太

プロデューサー：鉢峯純孝

撮影監督：今井龍二

音楽：吉田大地

編集：今井龍二、中村優太

〈監督略歴〉

2010年4月 北海道大学理学部 入学

2014年3月 北海道大学理学部 卒業

2014年4月 東京大学大学院理学系研究科 入学

2016年3月 東京大学大学院理学系研究科 卒業

2016年4月 香川県某製薬会社 入社

2019年8月～10月 香川県文化振興課主催のシナリオ創作講座を受講

2020年2月 さぬき映画祭第4回シナリオコンクール大賞受賞

【問い合わせ先】

映画「地蔵調査官」製作委員会

メールアドレス：jizoutyousakan.seisaku@gmail.com